

2022年度 応用地形判読士資格検定試験
(通算第10回)

《学科試験-3の解答と補足説明》

問 26. 斜面の高所側から低所側に向かって、傾斜が「緩」から「急」に変化する地点が連続する**傾斜変換線の名称**。

遷急線(せんきゅうせん):海食崖、段丘崖、谷壁斜面などの下方斜面が侵食される場所で顕著に認められ、地すべりや崩壊の滑落崖にも認められるので、防災上の注意すべき地形。

問 27. 重力変形により形成される、二つの稜線がほぼ平行に並んでいる**地形の名称**。

二重山稜(にじゅうさんりょう):斜面の不安定化を示す地形で、深層崩壊に結びつく地形とも考えられ、防災上の注意すべき地形。

問 28. 起伏のある山地の大局的な高度分布や形態を把握するために、小規模な谷を埋めて描かれる**仮想的な面の名称**。

接峰面(せっぽうめん):地形の形成過程の把握や侵食谷の侵食量の推定などに利用されることがある。

問 29. 下刻と側刻をしながら振幅を増大する、育成蛇行河川の内側に形成される**斜面の名称**。

滑走斜面(かつそうしゃめん):滑走斜面の対岸は、水衝部の攻撃斜面が形成されていることが多い。攻撃斜面は斜面基部の侵食により不安定化しやすいのに対して、滑走斜面は比較的安定性が高い。
ポイントバーや寄州の解答があったが、これらは砂礫などからなる堆積地形を指すものであり、斜面の名称ではない。

問 30. 河川の河口部が、砂州の発達によって沿岸漂砂の流下方向に大きく曲げられる**現象の名称**。

河口偏倚(かこうへんい):沿岸漂砂によって河口が閉塞されやすいため、浸水被害が想定される場合には浚渫や導流堤の建設などの対策が行われる。

上段:設問 / 下段:解答と補足説明